

京都建築事務所

想いをカタチに、想い以上の感動を



私たちは、医療福祉施設を中心に設計を行っています。クライアントの想いを叶え、それが社会貢献につながる設計を目指しています。

医療福祉施設の新築、増築、改修等、お気軽にお問合せください。

株式会社 京都建築事務所
代表取締役社長 細見 建司

〒604-8083 京都市中京区三条通柳馬場東入中之町 10 番地

TEL:075-211-7277 FAX:075-211-7270

<http://www.kyoto-archi.co.jp/>



第 6 回研究所・ひろば **無料** オンライン講座

日時：2022 年 2 月 19 日（土）16 時～18 時

「コロナ禍で福祉に働く ひとの声アンケート」調査報告

総合社会福祉研究所・福祉保育労働組合

※下記のメールアドレスに、お名前、ご所属、電話番号をお知らせください。後日配信をご希望の方は、その旨をメールにご記載ください。
開催一週間前ごろにメールにて ZOOM の URL をお送りします。

.....
総合社会福祉研究所 TEL06-6779-4894 FAX06-6779-4895

E-mail : mail@sosyaken.jp



外国人の生活と就労を支える シェアハウス「みんなのいえ」

東南アジア等での地域支援、国際協力にとりくむ公益財団法人PHD協会が運営するシェアハウス「みんなのいえ」にお邪魔しました。現在は外国人4人が利用し、ホアンさん（写真）はシェアハウスを利用している一人。ベトナム・ダナン出身の22歳で、来日して3年です。日本語学校を卒業したものの就職も決まらず、値上がりした家賃が払えなくなり行き場を失ったとき、学校のベトナム人スタッフがシェアハウスのことを教えてくれたと言います。在日外国人にとって、住まいの確保は大きなハードルになっています。



シェアハウス内のコミュニティスペース（写真上）には、15人ほどが集まります。「コロナ前は交流をはかる催し物がおこなわれ、いつもにぎやかだった」とみんなのいえ施設長の濱宏子さん。写真下の棚にあるものはすべて寄付していただいたもので、居住者が自由に食べることができます。ホアンさんがシェアハウスに来て一番うれしかったのは、食べ物に困らないことだったと話します。



ホアンさんの自室にお邪魔させていただきました。写真上はホアンさんの勉強机とベッド。ホアンさんの荷物はスーツケースひとつに収まる量でした（写真下）。「日本の生活で一番困ったことはお金でした。シェアハウスにたどり着いたときの所持金は500円しかありませんでした」とホアンさん。外国人にとって日本での就労は、言葉の壁や文化の相互理解のズレなどによって、ときに行き詰まってしまうという現実もあります。



取材中、ホアンさんからのとつげんの「介護事業所の面接に受かった!」との報告に、「なんでもっとはやく言ってくれなかったん!」とビックリし急いで合格の確認をする濱さん。特定技能「介護」という在留資格で就労が決まりましたが、介護の仕事で日本で働きつづけるためには、5年以内に介護福祉士の資格を取らなくてはなりません。濱さんは、「東南アジアの方は、高齢者にやさしく介護の仕事を望む方も多いです。介護福祉士取得の壁は高いですが、日本で安定した仕事を得るためにがんばってほしいです」と話されます。PHD教会のとりくみについては、特集でも紹介しています。

(写真・文 高倉弘士)

【ひろばトーク】

すべての子どもたちが大切にされる世の中に 武藤 素明 6

●特集● 在日外国人と福祉——排外主義に対抗しつづける

日本にいる外国人の社会保障を考える	寺内 順子	10
人権保障を軸とした特定技能の支援のあり方を考える	坂西 卓郎	16
違いを認め合い、尊重し合える多文化共生を	田山 華栄	20
外国人を排斥しつづけてきた、日本の入国管理	草加 道常	24
在日コリアンの権利保障が外国人全体の権利保障につながる	宋 貞智	28
排外主義に抗い、人としての尊厳をまもる福祉専門職の役割	石川久仁子	34

●トピックス●

年賀広告	39
【PHOTO】ズームイン！ 子育てふれあい広場	42

●連載●

WORK WORK——わくワク——

ジャムが咲かせる「無花果の花」 社会福祉法人ふたかみ福祉会はびきの園 46

ミリタンが実現するフランスの福祉

移民は国の将来をつくる構成員の一人 安發 明子 48

かさねあい、はぐくみあう保育実践 大塚 亜侑美 50

子どもも職員も主体となって、キラキラ輝ける保育園へ

夕映えのとき～人生の終え方を支える実践～

一つひとつの「たのしい」「うれしい」によりそえる支援を 不破 久美 54

JOB & ACTION 全国福祉保育労働組合（11）

「9000円では足りません！」本気の処遇改善を求める22春闘 58

私の履歴書 社会福祉経営全国会議（11）

自分らしく生きる権利としての福祉の実現を願って 増田 百代 60

阿修羅がゆく わたしが好きな釜ヶ崎（31） 水野阿修羅 62

相談室の窓から

「ふつう」という縛りから解放を① 青木 道忠 64

育つ風景 清水 玲子 66

子どもが自分のやりたい気持ちと素直に向き合うときを共に過ごす喜び

ひととしてあたりまえに生きたい

施設建設委員長として（6） 清田 廣 68

映画案内 『ウエスト・サイド物語』 吉村 英夫 70

現代の貧困を訪ねて コロナ不況下での自殺相談 生田 武志 72

似らずとれーしょん道場 似顔絵まんがアート

似ても似んでも——じゃ ラッキー植松 74

ホームレスから日本を見れば ありむら潜 76

花咲け！ 男やもめ 川口モトコ 77

福祉のひろば

2022年2月号

●表紙の絵●

神門やす子



みんなのポスト 44／福祉の動き 78／今月の本棚 81

●グラビア● 外国人の生活と就労を支えるシェアハウス
「みんなのいえ」

すべての子どもたちが大切にされる世の中に

社会福祉法人二葉保育園常務理事 武藤 素明

先日、四歳から一八歳まで当学園で生活を送った二六歳の卒園生（女性）の結婚式がありました。諸所の事由により親が不在で、結婚式で親代わりとしてバージンロードと一緒に歩いてほしいと頼まれ、涙涙の感動の結婚式に参加してきたところです。児童養護施設の子どもたちは、結果的に家族が離れ離れになってしまい、たいへんな環境下でがんばってきた子どもたちでもあり、しあわせな家庭を築いてほしいと心から願うばかりです。

社会福祉法人二葉保育園は、一九〇〇年に二葉幼稚園として貧しい家庭で育つ子どもたちのために児童福祉を開始し、今年で一二二年目を迎えます。大正時代には母の家（現在の母子生活支援施設）や、小学校の校庭や校舎を借りて学童保育をおこなったり、貧しい生活を余儀なくされる家族のために夜間診療所や母親への職業訓練所（縫製）などもおこなっていました。また、地域福祉の観点で五銭食堂や売店なども開設をしました。現在は保育所二園、児童養護施設二園、乳児院、自立援助ホームの六施設を運営しています。

長く子どもの支援にとりくんでいますが、令和の現代においても、さまざまな制度の狭間におかれ貧困状態にさらされている子どもたち、虐待やDVにあっている子どもたちや家族、家出や居場所がなくなっている子どもたち、複合的な困難を抱えるなかでひきこもり状況が長期化している子どもたちなど、社会的養護の現場から見えてくる子どもたちの状況はたいへんきびしい現状にあります。最悪な状況は、実の親等から虐待さ



むとう そめい

社会福祉法人二葉保育園常務理事、児童養護施設二葉学園・二葉むさしが丘学園統括施設長。本誌全国編集委員。

大分県宇佐市の禪宗の小寺に生まれ育ち、大学卒業後たどり着いたのがキリスト教の精神にて運営する社会福祉法人二葉保育園、児童養護施設二葉学園の児童指導員です。以来、施設長、統括施設長を歴任し、あっという間に47年が過ぎようとしています。

れ死亡にいたる子どもたちが減らないこと、自殺をする子どもたちが増えつづけていることです。

私はこれまで「子どもが大切にされない国はやがて亡びる^{ほろ}」と言ってきました。かけがえのない命をえてこの世に生まれ、その幼い命が大切にされない状況だけはあつてはならないことであり、ありとあらゆる対策を講じるべきだと思います。

私も児童養護の仕事にかかわり半世紀になろうかとしています。施設入所の理由として、以前は親の行方不明や離婚、経済的理由や病気などで子どもを育てることが困難なため、というものが多くありました。しかし、現在の入所理由は児童虐待が最も多くなつてしまいました。虐待により、心身ともにひどく傷ついた児童が入所してきます。私たちからすると、こんなにひどく傷つく前になぜさまざまな支援や介入ができなかったのか、と思われる事例が多くなつてきています。そうしたケースを目にすると、子育てを親だけに任せずに、もっと地域で、社会で、国全体で子どもを育てるシステムをつくるべきだと思いますし、子育てをする親や大人をもっと支援する制度も拡充するべきだと思います。

九月におこなわれた総裁選もそうですが、選挙のたびにどの候補者も、「子どもを大切にする政策を第一に進める」と言います。しかし、公約通り進めている議員がほとんどいないことに腹が立ちます。すべての子どもたちが大切にされる世の中にしていくべきだと、心から思います。

在日外国人と福祉——排外主義に対抗しつつける

昨年三月、スリランカ人のウイシユマ・サンダマリさん（33歳）が、名古屋市にある入管施設で収容中に亡くなるという事件が起きました。一月中旬頃から体調不良を訴え、嘔吐や衰弱などの症状があったにも関わらず、適切な医療を受けられないまま亡くなってしまいました。現在も十分な真相究明はなされず、遺族側は裁判の準備を進めています。同居していた男性からDVを受けており、収容当初は帰国を希望したものの、その男性から「帰国したら罰を与える」などと書かれた手紙が届き、帰国という選択も困難だったことがわかっています。

二〇二〇年一月には、熊本県のみかん農園で働いていたベトナム人技能実習生のレー・ティ・トウィ・リンさんが、妊娠していることをだれにも相談できず、部屋で一人、双子の赤ちゃんを死産した事件が起きました。リンさんが妊娠をだれにも相談できなかったのは、「技能実習生は妊娠したら帰国させられる」ことが常態化していたからです。リンさんは、来日のための借金返済と母国の家族を支えるため、帰国するわけにはいかず、出産の前日まで仕事をしていました。日本で働き、生活する外国人が増加するなかで、そうした外国人への差別、人権問題がきわめて深刻になっています。

私自身も在日コリアン三世です。帰化はせず「韓国籍」として生きてきました。日本で生まれ、韓国

語も話せず、染み付いている習慣や文化も、ほぼ日本人だと思っています。特集のなかで宋貞智さん

ソンナヨンジ

話されているとおり、「なんで帰化しないの？」と聞かれたり、「国籍なんか関係ないよね」と言われたことは数え切れません。それが善意による言葉だからこそ、モヤモヤしながら答えに窮してきました。

壮絶な差別を受けてきた祖母の「勉強さえできたらバカにされないから、勉強だけはしっかりしなさい」という口ぐせや、通名を捨てて大学生から本名を使い始めた両親の話、就職活動で「通名で働くなら雇ってもいい（取引先が朝鮮人を嫌がる可能性があるからだそうです）」と言われて辞退した父の話聞いてきました。決して昔の話ではなく、北朝鮮の拉致事件があったときには、当時朝鮮学校に通っていた小学生のいとこが、見知らぬ人から石を投げつけられました。結婚差別も就職差別も、国籍によるさまざまなヘイトも、昔の話ではありません。こうしたたくさんさんの差別の歴史やいまある現実が、「帰化」による「同化」で解決されるのでしょうか。なかったことになるのでしょうか。

『差別はたいてい悪意のない人がする』（キム・ジヘ著、尹怡景訳、二〇二二年、大月書店）のなかで

ユンイギョング

著者は、「だれもが平等を望んでいるが、善良な心だけでは平等を実現することはできない。不平等な世界で『悪意なき差別主義者』にならないためには、慣れ親しんだ秩序の向こうの世界を想像しなければならぬ」と書いています。平等と同化はちがいます。同化を求めるのではなく、排斥するのでもなく、違いを認め合い尊重し合いながら、だれも取り残さない社会をめざすために、「在日外国人と福祉」の問題を一緒に考えていけたらと思います。

（編集主任）